

## 第2回 認知症に関するワークショップ実施概要

### 1. 目的

第1回ワークショップでは、(仮称)世田谷区認知症施策推進条例の制定に向け、認知症の人・家族・地域団体・関係機関等より地域全体で何ができるか、何が求められているかの貴重な意見を受けた。

第2回ワークショップでは、区民、家族そして認知症当事者、福祉・介護施設の方や医療関係者を交え、認知症になっても希望をもって生きていくことができる地域づくりに向けて、何が大切なのか等の意見をいただき、条例制定に向けた検討の素材としていく。

### 2. 開催日時

令和元年11月30日(土) 14時～16時

### 3. 開催場所

世田谷区役所ブライトホール

### 4. テーマ

条例の名称

区・区民・地域団体・関係機関・事業者の立場から地域でできること

### 5. 参加者

第1回参加者に加え、区のホームページやせたがや介護の日、認知症サポーター養成講座で募集案内を行ったところ、地域にお住まいの方や家族会、介護事業者等の関係機関から34名が参加した。

内訳	人数	備考
区民	21	一般公募、もの忘れチェック相談会受講者、認知症カフェボランティア、認知症サポーター等
家族会等	4	家族会・認知症カフェ運営者
介護事業者	6	あんしんすこやかセンター、ケアマネジャー、認知症デイサービス
学識経験者	3	国際医療福祉大学大学院教授 東京医療保健大学大学院看護学研究科講師 日本大学文理学部社会福祉学科教授

## 6. 運営方法

### (1) 概要

事務局からワークショップの主旨及び第1回ワークショップでの意見、進め方について説明を行い、その後、グループワークの方式でワークショップを行った。

### (2) グループワークの進め方について

始めに、自己紹介を行った後に、条例の名称や区・区民・地域団体・関係機関・事業者の立場から地域でできることについて、区民間の意見交換を行う。その後、意見のとりまとめを行い、最後に各グループが検討結果を発表する。

### (3) 発表について

発表は、各グループで出された意見や提案を模造紙に付箋で貼り、整理して行う。

全体スケジュール

項目	時刻	時間	内容
全体ガイダンス	14:00～14:15	15分	・挨拶 ・ワークショップの主旨 ・第1回ワークショップでの意見（課題や必要なこと）の説明及び第2回目の進め方の説明
ワークショップ	14:15～15:20	65分	・世田谷らしい条例の名称 ・認知症の方の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して住み続けられる社会の実現に向け、区・区民・地域団体・関係機関・事業者の立場から地域でできること ① 普及啓発と理解 ② 認知症への備え・相談 ③ 共生社会・地域づくり
発表	15:20～15:45	25分	・各グループ発表（5分×5テーブル）
総評・閉会	15:45～16:00	15分	・質疑応答 ・総評 ・挨拶 ・アンケート記入、回収

## 7. 主な意見（概要）

各グループの討議を通じて出された主な意見を整理すると以下のようになる。

### (1) 条例の名称

- ・希望
- ・認知症とともに生きる希望のまちづくり
- ・認知症とともに暮らす
- ・みんなの認知症

### (2) 認知症の普及啓発・理解

- ・私が本人として出来ることは、今の自分を知ってもらうことで、なるべくみなさんが集まる場所で話すようにしている。それは、私を理解してください私を助けてくださいではなくて、そういう病気の人がいる、そういう人達も地域で自分らしく生きようと頑張っているということを知ってもらいたいから。

- ・やはり当事者の人の話を聞くのが一番
- ・私はやっぱり認知症への理解を深めるということが認知症への悪いイメージを少なく出来るのではないかなと思う。
- ・学校で認知症について正しく学ぶ機会を設けるべき。
- ・認知症のネガティブなイメージを変えたい。
- ・認知症は対応次第で穏やかに生活できるので、それを伝えたい。

### (3) 認知症への備え・相談

- ・認知症になる前の備えが大事。皆がいずれは認知症になる可能性があるということを知ってもらうのが一番いいことだと思います。
- ・自分らしい生き方を深く考える。認知症になったときに、何を一番に大切にしたいか、周囲の人たちに伝えておくべき。
- ・自分が認知症になったときにどうしたいかを書くノートをつくるべき。
- ・隠せば隠すほど悪化していくので、すぐに相談できるといい。そうすると支援につながる。
- ・認知症も一つの病気と捉えたら、予防出来るものは予防したいと思う。例えば生活習慣病を悪化させないという意味での問いかけや働きかけが周りの方々に必要と思う。
- ・予防という概念は、ならないことではなくて、なることを遅らせることも含めて言う。今の段階で予防という言葉はどう使うかということをよく考えた方がいいと思う。

### (4) 共生社会・地域づくり

- ・認知症だから声掛けいっぱいしてください。忘れたところを少し言ってくれば頑張れるため、集中してしまうからそれを取り戻してくれる地域だといい。
- ・共生社会・地域づくりということで、あんしんすこやかセンターで区民の方に希望者を募り、認知症の方への声掛け訓練をした。結構評判が良かった。私は認知症の方の役をしたが、皆さんすごく優しい語り口で声掛け訓練に参加してくれた。
- ・支援と考えると人ごとになってしまうので、サポーターから、自分ごととして捉えるパートナーという意識変革をしたい。
- ・認知症の当事者の一見不思議な行動にも、絶対に理由があるはず。その理由をおおらかにみんなで考えていけるような環境をつくることで、認知症の本人も落ち着かれると思う。
- ・社会全体が認知症を受け入れて家族も隠さないでご本人も認知症になったことを隠さない、しかも自分のやっていたことを誰かの力を借りながらでも続けて、その中で役割を持って生きていけるような社会が大事と思う。
- ・地域でのつながりと支えが大事。
- ・幼児期から高齢の方と触れ合う機会をつくる。(認知症の方との接し方が学べる)
- ・外国にはあるスーパーなどでの「スローレーン(ゆっくり窓口)」の設置ができるといい。